

# 無人機 原発復旧作業に一役



## 妙高の会社

東京電力福島第1原発を撮影した「エア・フォート・サービス」(妙高市)の無人飛行機(写真、同社提供)は通常、土木工事の事前調査や災害現場を撮影している。同社と災害応援業務協定を結んでいる同市が国に紹介し、東電への協力が実現。

## 現状把握へ画像提供

20日と24日の2回にわたって原発の撮影を行った。エア社が開発した無人飛行機は、全長約2・7㍍、翼長約3㍍。衛星利用測位システム(GPS)で自動的に目的地へ向かい、機首に付いたカメラで地上を撮影する。

今回は福島市郊外の民間飛行場を離陸し、約35分かけて原発の上空に到着。

水素爆発した原子炉建屋や、使用済み核燃料プールと思われる箇所を含む約350枚を撮った。機体に被ばく被害はなかつたという。

エア社の山崎健吾社長(58)は「東電からは解像度の高い画像で現状把握に役立つたと感謝された。國民が心配する事故の対応に少しでも役割を果たせたと思う」と話している。